

は し が き

教育改革に関する各種審議会の答申を踏まえて、学習指導要領が改訂されました。そこでは、これからの社会の変化とそれに伴う児童生徒の生活や意識の変容に配慮しつつ、生涯学習の基盤を培うという観点に立ち、21世紀を目指し社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成を図ることを基本的なねらいとしています。

その改訂の基本方針の2に「基礎・基本の重視と個性教育の推進」が掲げられています。この基本的な精神をどのように受け止め、どのように具体化していくかが学校現場に課せられた大きな課題となっています。一口に「個性化教育」と言っても、その受け止め方は実に多様であります。目的論として意味付けようとする立場、方法論として受け止めようとする立場があります。学校の施設・設備が整わないと始められないという考えがあり、教育課程の編成の中で改善していこうとする立場があります。これらの考え方から言えば、学校全体での取り組みがないと先へ進めないということも言えましょう。

しかし、新学習指導要領実施への移行措置が進められている現在、私達は、できるところから始めなければならないと考えます。個性化教育の壮大なビジョンを描きながらも、まず、日常的な学習指導における考え方、授業の進め方を提言しようというのが、本研究の趣旨であります。

研究の視点は、大きく2つあります。

第1点は、個性・創造性の発揮される学習場面をどのようにとらえるかということです。期待する子供像を思い描き、それに向かって子供を鍛え、訓練しても個性・創造性を育てることにはならないと思います。子供たち一人一人の見方・考え方を認め合い、そのよさを尊重し合う中で個性・創造性は育てられると考えるからです。おのずと教師の指導の在り方も転換を迫られるものであります。

第2点は、期待する授業像を、どのようにして具体化したら良いかという指導の在り方を提言しています。授業改善のための着眼点を提起し、この視点からの授業実践を試み、その成果を紹介しています。授業の結果、個性や創造性がこれだけ伸びたという端的な評価はできません。しかし、子供たちの取り組みの姿を見てみると、その手ごたえは、確かに感じ取ることができるのです。

緒についたばかりの研究ですので内容的には不十分な点が多くあるかと思いますが、多くの先生方のきたんのない御批判、御意見をいただければ幸いに存じます。

終わりに、アンケート調査に御協力いただいた先生方、並びに校務多忙の中、熱心に研究に取り組まれた研究協力員の先生方に対し、心から御礼申し上げます。

平成2年3月

新潟県立教育センター所長

海 藤 是 夫